

(参考資料)

(財) 日本野鳥の会

●鳥類への影響について

鳥類の風力発電施設への影響については、国内においてはきちんと調べられているものがなく、海外でもその報告はわずかです(下表参照)。風力発電施設が増えていく中で、鳥類を含め野生生物の影響を調査し、把握しておく必要があります。

国名	内容	出典
アメリカ	米国カルフォルニア州オルトモントパスは、7000基あまりの風車が立ち並ぶウィンドファームがある。ここでは1980年代後半からワシやタカが風車のプロペラや送電線に衝突して年間25羽のイスワシが死亡した。	エコシステム2000年5月号((財)日本生態系協会)
イギリス	1992年から1997年1月までの間に港で合計63個体のケワタガモ死体が見つかった。うち、12個体は、風力発電に衝突したものと証明され、8個体は他の構造物に衝突したものであった。他43の死因は飢餓および漁網によるものだった。	「Blyth Harbour Wind Farms and Birds」 European Wind Energy Conference, October 1997
オランダ	Joke Winkelman が1992年から1994年にオランダで行った調査では、18基の風車がある所で、1日1羽が事故死しているとしている。	Windpower 9月号
デンマーク	風力発電に衝突する鳥の数を羽数/風車1基あたり/年で表し、衝突しても発見されない個体数について2.2の補正因数を用いると、最も高い数は6~7羽/風車1基あたり/年である。3,500基の風車では、年間20,000-25,000羽の鳥が衝突によって死ぬことを意味する。	「Impact of Wind Turbines on Birds」 European Wind Energy Conference, May 1996
デンマーク	デンマークの環境省(Danish Ministry)の研究によると、風力発電施設に結びつく送電線が風力タービンよりはるかに鳥へ大きな影響があるとしている。	Birds and Wind Turbines
日本	2001.12. 三浦市にある2基の風力発電について、三浦市役所から設置してから半年は、トビが毎日のように被害にあったという報告を得た。	(財)日本野鳥の会による聞き取り調査
日本	2002.3 長崎県生月島の風力発電について、設置後1羽のトビが衝突し死亡したとの報告があった。	(財)日本野鳥の会による聞き取り調査